

## บรรณานุกรม

### หนังสือ

พิณทิพย์ ทวยเจริญ. ภาพรวมของการศึกษาศาสตร์และภาษาศาสตร์. ฉบับพิมพ์ครั้งที่ 3  
ปรับปรุงใหม่. กรุงเทพฯ: โรงพิมพ์มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2547.

### วิทยานิพนธ์

วรพร ได้สกุลชู. “การใช้ประโยคคำถามในวัจนกรรมอ้อม.” วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต สาขาวิชา  
ภาษาศาสตร์ คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2547.

วัชรชัย ขอบเหลือง. “กลวิธีการสื่อสารโดยการพูดอ้อมในภาษาญี่ปุ่น.” วิทยานิพนธ์มหาบัณฑิต  
สาขาวิชาญี่ปุ่นศึกษา คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, 2547.

### Books

Haruo Aoki & Shigeko Okamoto. Rules for Conversational Rituals in Japanese. Tokyo:  
Taishukan Shoten, 1988.

Searle, John. R. Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language. Cambridge:  
Cambridge University Press, 1969.

Searle, John. R. Expression and Meaning: Studies in the Theory of Speech Acts.  
Cambridge: Cambridge University Press, 1979.

### Article

Iguchi, Yuko. “Functional Variety in the Japanese Conjunctive Particle Kara ‘Because’.”  
In Studies in Japanese Grammaticalization - Cognitive and Discourse  
Perspectives -. pp.99-128. Edited by Ohori, Toshio. Tokyo: Kuroshio  
Publishers, 1998.

## 参考文献

- 庵功雄 (2004) 『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—』 スリーエーネットワーク
- 石田恵里子 (1995) 「接続助詞「が」・「けど」の文末用法について」 『日本語の研究と教育窪田富男教授退官記念論文集』
- 今尾ゆき子 (1994) 「「ケレド」と「ノニ」の談話機能」 『世界の日本語教育』 4号
- 岩崎卓 (1995) 「ノデとカラー—原因・理由を表す接続助詞—」 宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法 (下)』 くろしお出版
- 内田安伊子 (2001) 「「けど」で終わる文についての一考察—談話機能の視点から—」 『日本語教育』 109号
- 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明監修 (1990) 『日本語大辞典—講談社カラー版—』 講談社
- 岡田安代 (1991) 「日本は、なぜ文末まで言わないのか?—会話を成立たせる「共話」の原理—」 『月刊日本語』 1月号
- 蒲谷宏 (1993) 「待遇表現における省略」 『日本語学』 9月号 Vol. 12 明治書院
- 北澤尚 (1995) 「主節の省略と言外の意味—「カラ」で言いさす文—」 『国学院雑誌』 6号
- 木山三佳 (2004) 「学習者言語にみる接続助詞「から」の談話機能の発達」 『世界の日本語教育』 14号
- 現代日本語研究会 (1999) 『女性のことば・職場編』 ひつじ書房
- 現代日本語研究会 (2002) 『男性のことば・職場編』 ひつじ書房
- 佐藤勢紀子 (1993) 「言いさし「…が／けど」の機能—ビデオ教材の分析を通じて—」 『東北大学留学生センター紀要』 1号
- 蘇玲禎 (2003) 「ケドで終わる文にみられる婉曲表現—中国語訳文と比べて—」 『日本語教育と異文化理解』 2号

- 白川博之 (1991) 「「カラ」で言いさす文」『広島大学教育学部紀要第2部』39号
- 白川博之 (1995) 「理由を表さない「カラ」」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版
- 白川博之 (1996) 「「ケド」で言い終わる文」『広島大学日本語教育学科紀要』6号
- 高田恭子・福盛寿賀子 (2001) 「非言い切り文の考察--教科書分析と「が・けど」文末の使用実態から」『九州大学留学生センター紀要』12号
- 高橋太郎 (1993) 「省略によってできた述語形式」『日本語学』9月号 Vol. 12 明治書院
- 曹英南 (2000) 「「けど」で終わる発話の語用論的研究—「言い終わり」の「けど」を中心に—」『言語文化と日本語教育』19号
- 曹英南 (2004) 「字幕付き映画における韓日の言いさし表現の対応関係—「述部有り」の言いさし表現を中心として—」『言語文化と日本語教育』27号
- 陳文敏 (2000) 「日本語母語話者の会話に見られる「中途修了型」発話—表現形式及びその生起の理由—」『言葉と文化』
- 永田良太 (2000) 「接続助詞カラの用法間の関係について—発話解釈の観点から—」『日本語教育』107号
- 永田良太 (2001) 「接続助詞ケドによる言いさし表現の談話展開機能」『社会言語科学』3-2
- 永田良太・大浜るい子 (2001) 「接続助詞ケドの用法間の関係について—発話場面に着目して—」『日本語教育』110号
- 永田良太 (2002) 『談話に基づく接続助詞ケドの機能に関する研究』広島大学大学院教育学研究科 学位論文
- 橋内武 (1999) 『ディスコース—談話の織りなす世界—』くろしお出版
- 夫明美・セナクワンチラー (2002) 「タイ人日本語学習者による終助詞「けど」の使用について」『語用論研究』4号

許夏玲 (1997) 「文末の「カラ」について—本来的用法から派生的用法へ—」  
『ことばの科学』10号

前田直子 (1995) 「ケレドも・ガとノニとテモ—逆接を表す接続形式—」 宮  
島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法 (下)』くろしお出版

松村明編 (1987) 『日本文法大辞典』明治書院

水谷信子 (2000) 「日英語の談話の展開の分析—話しことばにおける接続表  
現を中心として—」『応用言語学研究』2号

三原嘉子 (1995) 「接続助詞ケレドモの終助詞的用法に関する一考察」『横  
浜国立大学留学生センター紀要』2号

メイ、ヤコブ L. (1996) 『ことばは世界とどうかかわるか—語用論入門  
—』ひつじ書房